

## 「おれんじおおさか」船上新年会報告と しまなみ海道+鞆の浦+笠岡でのシップウォッチング

2025.1.27 池田良穂



恒例の日本クルーズ&フェリー学会の船上新年会が、去る1月24日大阪南港発のオレンジフェリーの「おれんじおおさか」船上で開催されました。出港は22時ですが、18時45分に乗船させていただき、レストラン内の個室スペースをお借りして、19時から新年会を開催。最初に常連だった故藤木洋一会員への献杯をし、その後で新年会が始まりました。

食事には、前菜のオードブルとおでんの鍋、そして同船自慢の「宇和島鯛めし」がでてきて、ビールとワインで船談義に華が咲きました。

参加者は14名と昨年よりは10名ほど少ない人数でしたが、出港の22時前まで賑やかな会が持てました。









「おれんじおおさか」は、姉妹船の「おれんじえひめ」と共に 2018 年に今治造船系の「あいえず造船」で建造されて、今年で 8 年目になりますが、メンテナンスはよくとてもきれいな船内でした。夜 22 時に出航して翌朝 6 時に到着しますが 7 時まで船内に留まることができます。総トン数は 14759 トン、全長は 199.9m。瀬戸内海の夜間航行が可能な 200m 未満という全長ぎりぎりに抑えた瀬戸内マックス船です。すべてベッドの個室になっており、快適な船旅が楽しめます。

以前は昼の瀬戸内海の航海が楽しめる昼便もあったのですが、今は深夜便だけになりました。

翌朝 7 時に東予港から車で出発して、今治からしまなみ海道に入って、島伝いのドライブを楽しみました。主目的は、生口島と因島の内海造船で艤装中の船の姿を眺めることでした。特に、防衛省の PFI 用船船舶になった「ナッチャン NEO」が瀬戸田工場にいるとの情報を得ていたもので、同船の姿を見るのが楽しみでした。



しまなみ海道のサービスエリアから来島海峡大橋の下を通過する重量物運搬船「アポロ・ブレイブ」を見ることができました。



生口島の道路からは、今治造船の広島工場で艤装中の ONE の 3 隻の大型コンテナ船が遠望できました。かつての幸陽ドックです。同ドックは 2014 年に今治造船に吸収合併されています。



生口島の瀬戸田では内海造船瀬戸田工場で係船中の「ナッチャン NEO」の姿を見ることができました。同船は、津軽海峡フェリーの青函航路船「ブルー・ルミナス」で、高速マリン・トランスポート(株)に移籍され、PFI(Private Finance Initiative)で防衛省にチャーターされています。ギリシアに売却された「ナッチャン World」の後継船となっています。



沢港に入港する「シーホーク」



沢港のポンツーンに繋がれていた「かがやき 5 号」



生口島の隣の因島で再びしまなみ海道から降り、土生港から隣の生名島までフェリーで渡って、因島でJMUで修理中のJOGMECの3次元物理探査船「たんさ」、ドック中の「さんふらわあさつま」の姿を見ることができました。



因島から生名島まで乗船した「ゆめしま」。わずか5分の航海時間でした。



生名島からはJMUと内海造船因島工場が見え、JOGMECの「たんさ」が岸壁で修理中のような様子でした。



商船三井さんふらわあの大坂南港～志布志航路の「さんふらわあさつま」がドック中でした。



尾道でしまなみ海道を降りて本州に上陸し、海岸線をドライブして鞆の浦に向かいました。途中の沼隈の海岸線には、常石造船のドックがたくさん並んでいます。また超高級クルーズ船として有名な「ガンツウ」の姿もありました。

鞆の浦は、江戸自体からの風待ち、汐待の港として栄えた小さな入り江の町で、今は観光の町、鯛料理の町になっています。坂本龍馬が借りて運航していた「いろは丸」が、この沖で紀州藩の「明光丸」と衝突して沈没し、龍馬が船舶の衝突に関する国際法規にしたがって責任を追及して多額の賠償金を支払わせたという有名な「いろは丸事件」の展示館があります。

この港には、2つの渡船場があり、1つはすぐ隣の仙酔島への連絡船の乗り場、もうひとつが30分ほどの航海時間のカーフェリーが就航している走島への浮栈橋です。この浮栈橋からは瀬戸内クルージングの運航する高速旅客船の便もありますが、冬の間は休航中でした。



常石造船の工場群の西端のマリーナの一角にウルトラ・ラグジュアリー船「ガンツウ」が停泊していました。



鞆の浦と仙酔島を結ぶ渡船「平成いろは丸」です。背景に写るのが仙酔島です。





「平成いろは丸」です。



鞆の浦の西の沖に浮かぶ走島(はしりじま)です。



走島汽船の「神勢丸」が鞆の浦に入港してきました。





「いろは丸展示館」のパフレットから、「いろは丸」と「明光丸」の衝突時を描いた絵をご紹介します。展示館の説明文には谷井健三画伯の絵とありました。谷井先生には、1989年発行の拙著「船ができるまで 豪華客船くふじ丸」のイラストを描いていただいております。

鞆の浦に一泊した後、笠岡港に寄りました。ここは笠岡諸島への高速旅客船やカーフェリーがでる港町で、カブトガニでも有名です。細長い港の東側の海岸には遊歩道が整備されており、ここから出入港する離島航路船を眺めることができます。小一時間ほどしかいませんでしたが、三洋汽船の2隻の高速船の姿を見ることができました。いずれも日本クルーズ&フェリー学会発行の「日本の旅客船Ⅲ」では収録できなかった船だったので、嬉しい出会いとなりました。



三洋汽船の高速旅客船「しおじ」です。2019年にツネインクラフト&ファシリティーズで建造されています。19総トン型アルミ船で、





三洋汽船の「つむぎ」です。2022 年にツネイシクラフト&ファシリティーズで建造されています。19 総トン型アルミ船で、旅客 97 名、航海速力 23 ノットです。



笠岡フェリーの「第 18 大福丸」です。



岡山県警のパトロールボート「みずかぜ」です。